



安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社
 東京都中央区日本橋本町4-3-8
 担当
 TEL(03)3270-2701
 FAX(03)3270-2720
 緊急連絡 同上
 改訂日 2020/03/16
 SDS整理番号 19013250

製品等のコード : 1901-3250、1901-3230、1901-3260

製品等の名称 : サリチル酸

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
 アゾ染料中間体、防腐剤、医薬、紫外線吸収剤原料、食品添加物 など



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分外
 自然発火性固体 : 区分外
 自己発熱性化学品 : 区分外
 水反応可燃性化学品 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分4
 皮膚腐食性・刺激性 : 区分2
 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2A
 皮膚感受性 : 区分1
 生殖毒性 : 区分2
 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) : 区分1(中枢神経系)
 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) : 区分1(中枢神経系)

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 : 区分3

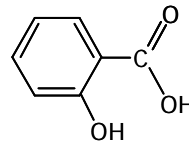
注意喚起語：危険

危険有害性情報

飲み込むと有害(経口)
 皮膚刺激
 強い眼刺激
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
 中枢神経系の障害
 長期又は反復暴露による中枢神経系の障害
 水生生物に有害

注意書き

【安全対策】
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 取扱い後は、よく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。



保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。

眼に入った場合、水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	:	単一製品
化学名	:	サリチル酸 (別名) 2-ヒドロキシベンゼンカルボン酸、 o-ヒドロキシ安息香酸、 2-ヒドロキシ安息香酸 (英名) Salicylic acid (EC名称)、 2-Hydroxybenzoic acid、 o-Hydroxybenzoic acid、2-Hydroxybenzoic acid、 Benzoic acid、2-hydroxy- (TSCA名称)
成分及び含有量	:	サリチル酸、 99.0%以上
化学式、構造式	:	C ₆ H ₄ (OH)COOH、 C ₇ H ₆ O ₃ 、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	138.12
官報公示整理番号	:	(3)-1640
化審法 安衛法	:	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	69-72-7
EC No.	:	200-712-3
危険有害成分	:	サリチル酸

4. 応急処置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	:	汚染された衣類を脱ぎ、皮膚を多量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激又は発疹が生じた時は、医師の診察、手当を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいをする。 コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	:	情報なし

5. 火災時の措置

消火剤	:	本製品は可燃性である。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤	:	棒状放水(本品があふれ出て、火災を拡大するおそれがある。)
特有の危険有害性	:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする。 環境への流出をできるだけ防止する。
特有の消火方法	:	火元への燃焼源を遮断する。

火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
 消火を行う者の保護：消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
 風上から作業し、粉じん、蒸気、ミストなどを吸入しない。
 粉じん、蒸気が飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
 環境に対する注意事項：河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
 回収、中和：飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。
 後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
 封じ込め及び浄化の方法・機材
 : 危険でなければ漏れを止める。
 二次災害の防止策：事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
 周辺の発火源を速やかに取除く。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
 技術的対策：本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
 粉じんの堆積を防ぐ。
 局所排気・全体換気：換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
 安全取扱い注意事項：裸火厳禁。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの
 取扱いをしてはならない。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。
 接触回避：湿気、水、高温体との接触を避ける。
 保管
 技術的対策：保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。
 保管条件：直射日光や高温多湿を避けて保管する。
 容器を密閉し冷暗所に保管する。
 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
 混触危険物質：強酸化剤
 容器包装材料：ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度：設定されていない。
 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：
 日本産衛学会（2019年版） 設定されていない。
 ACGIH（2019年版） 設定されていない。
 設備対策：この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置
 する。
 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
 保護具
 呼吸器の保護具：呼吸器保護具（防じんマスク）を着用する。
 手の保護具：保護手袋（塩化ビニル製、ニトリル製など）を着用する。
 眼の保護具：保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用
 する。
 皮膚及び身体の保護具：長袖作業衣を着用する。
 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
 衛生対策：この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など：白色針状結晶または粉末
 臭い：無臭
 pH：酸性 約3（飽和水溶液）
 融点：158～161

沸点	: 分解 (200)
引火点	: 157.2
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: 1.14 hPa (130)
蒸気密度 (空気 = 1)	: 4.2
密度	: 1.48 g/cm ³ (20)
溶解度	: 水にほとんど溶けない (0.18%、20)。 エタノールに溶ける。 ジエチルエーテル、アセトン、クロロホルム、ベンゼンに 溶けやすい。
オクタノール/水分係数	: log Pow = 2.2
自然発火温度	: 540
分解温度	: 200
粘度	: データなし
GHS分類	
可燃性固体	: 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れがなく、さらに、国連危険物輸送勧告 (UNRTDG) のクラス4.1 (可燃性固体) にも該当しない非危険物であることから、区分外とした。
自然発火性固体	: 発火点は540 であり (HSDB (2009))、常温で発火しないと考えられることから、区分外とした。
自己発熱性化学品	: 空気との接触により自己発熱性がなく、さらに、国連危険物輸送勧告 (UNRTDG) のクラス4.2 (可燃性固体) にも該当しない非危険物であることから、区分外とした。
水反応可燃性化学品	: 本品は水に難溶であるが、水に対して安定である (水との混触で可燃性ガスの発生がない) と考えられるので、区分外とした。

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の取扱条件において安定である。 昇華性あり。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤と混触すると反応することがある。
避けるべき条件	: 高熱、日光
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラットのLD50値として5件のデータ (1500-2000 mg/kg (JECFA WHO 228 (1962))、1100 mg/kg (JECFA 7742 (2002))、891 mg/kg、1580 mg/kg、1280 mg/kg (NTP TR524 (2007))) から、区分4とした。 飲み込むと有害 (経口) (区分4) 経皮 ラットのLD50は>2000 mg/kgで死亡例なしとの報告 (NTP TR524 (2007)) に基づき、区分外とした。 吸入 (蒸気) データがないため分類できないとした。 吸入 (粉じん) ラットのLC50値は粉塵ばく露で >0.9 mg/L/1h (>0.225 mg/L/4h) (IUCLID (2000)) と報告されているが、区分を特定できないので分類できないとした。
皮膚腐食性・刺激性	: ヒトに0.2%または1.5%のサリチル酸溶液を21日間の閉塞または半閉塞貼付した試験では、本物質は非刺激性 (nonirritating) と結論され (NTP TR524 (2007))、また、ウサギを用いた試験で刺激性スコアは0.16/8.0で軽度の刺激性 (slightly irritating) と報告されている (IUCLID (2000)) が、ヒトのボランティアによる試験で刺激性あり (irritating) との結果 (IUCLID (2000))、13人の患者でサリチル酸塩使用と関連する中毒性の表皮壊死発生の報告 (PIM 642 (1998)、List1相当)、さらにサリチル酸は高濃度 (20%以上) で焼灼作用があるとの記載 (IUCLID (2000)) により、区分2とした。 皮膚刺激 (区分2)
眼に対する重篤な損傷・刺激性	: ウサギの眼に3%溶液を滴下し、強い刺激性 (highly irritating) との結果 (IUCLID (2000)) に基づき、区分2Aとした。 強い眼刺激 (区分2A)
呼吸器感受性	: データがないため分類できない。 なお、喘息のヒトは特にサリチル酸塩に対し著しい感受性を示し、蕁麻疹、発疹、血管性神経症、鼻炎、および重度で時に致死性とも言える発作性気管支痙攣、呼吸困難、ショック、失神など、種々の反応を引き起こす (PIM 642 (1998)) と述べられている。
皮膚感受性	: マウスのLLNA法による皮膚感受性試験で陽性 (positive) の報告 (NTP TR524 (2007)) に基づき、区分1とした。なお、本物質は局所使用でアレルギー性接触皮膚炎を起こすおそれがあるとの記述 (PIM 642 (1998))

- の一方、マウス耳介腫脹試験では感作性なし (not sensitizing) との報告 (IUCLID (2000)) もある。
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (区分1)
- 生殖細胞変異原性: データ不足のため分類できない。
なお、マウスに腹腔内または経口投与による染色体異常試験 (in vivo 変異原性試験) で、両経路とも染色体異常の有意な増加は見られず陰性 (HSDB (2009)) であった。
また、マウスの経口投与による精巣DNAへのトリチウムチミジン取り込み試験 (生殖細胞 in vivo 変異原性試験) では、トリチウムチミジン取り込みが有意に減少した (HSDB (2009)) と報告されている。
また、in vitro 試験として、エームス試験で陰性の結果 (HSDB (2009))、安衛法 変異原性試験データ集 補遺2版 (2000)) が報告されている。
- 発がん性: 知見データがなく、産衛学会や IARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSАの国際評価機関の報告がないため、分類できないとした。
- 生殖毒性: ラットの妊娠20および21日目に経口投与 (10 mg/kg) により、分娩開始時間の有意な促進 (HSDB (2009))、ラットの妊娠8~14日に混餌投与により、母動物の体重低下に加え、新生仔死亡の増加、同腹仔数の減少が見られ、仔の外表面異常および骨格異常の発生率が増加した (HSDB (2009))。以上より、母動物に一般毒性が発現している用量で生殖への影響が認められることから、区分2とした。
なお、サリチル酸塩はヒトで医薬品として使用され、出生前死亡率の増加、分娩前後の出血、妊娠期間の延長、分娩異常などが見られるため、妊娠3期 (妊娠後期) の使用は避けるべきとされ (PIM 642 (1998))、特に静注剤のサリチル酸ナトリウムについては、妊娠または妊娠している可能性のある婦人には投与禁忌とされている (医療用医薬品集 (2010)、List1相当)。
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い (区分2)
- 特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露): 本物質を含有する局所クリーム剤で治療された乾癬の患者が脳症を発症、さらに治療不応性低血糖あるいは酸・塩基平衡障害を呈し、救急血液透析により回復したとの症例報告 (HSDB (2009)) を初め、同様の症例が複数報告されている (HSDB (2009))。また、帯状魚鱗癬の5歳の子供に軟膏剤として使用後、発熱、呼吸亢進、呼吸性アルカローシス、昏睡状態、注視発作を起こしたと報告されている (HSDB (2009))。本物質は毒性用量で呼吸中枢を刺激し、呼吸性アルカローシスを生じ、重度の中毒では代謝性アシドーシスを起こす。さらに、標的臓器の一つに中枢神経系が記載されている (PIM 642 (1998)) ことから、区分1 (中枢神経系) とした。
なお、アスピリン (アセチルサリチル酸) を摂取した子供に肝性脳症が報告されている (PIM 642 (1998)) ように、サリチル酸塩では肝臓や肺など中枢神経以外の器官に対する影響が報告されているが、当該物質自体についてヒトでの具体的な報告はない。
中枢神経系の障害 (区分1)
- 特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露): 10%軟膏で4週間以上治療された尋常性魚鱗癬の7歳の子供が、ぜん鳴、嘔吐、めまいに続き、呼吸亢進によると思われる深い傾眠状態となり、入院に至った症例報告 (PIM 642 (1998)) がある。また、クリーム剤を5日間使用していた乾癬の患者が脳症を発症し、集中治療室に入院した報告 (HSDB (2009)) もある。一方、急性的過剰摂取よりも慢性中毒による方が死亡率が高く、死亡は突然の心停止、または時には重度の脳障害に続く多発性の合併症に因る (PIM 642 (1998)) と述べられている。本物質ばく露による標的臓器の一つとして中枢神経系の記載 (PIM 642 (1998)) もあり、区分1 (中枢神経系) とした。
長期に又は反復暴露による中枢神経系の障害 (区分1)
- 吸引性呼吸器有害性: データがないため分類できない。

12. 環境影響情報

- 水生環境急性有害性: 藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) の96時間EC50 = 65mg/L (環境省生態影響試験, 2000) から、区分3とした。
水生生物に有害 (区分3)
- 水生環境慢性有害性: 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり (BODによる分解度: 88.1% (既存点検, 1976))、藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) の72時間NOEC = 31mg/L (環境省生態影響試験, 2000) であることから区分外に該当する。
慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、魚類 (メダカ) の96時間LC50=>100mg/Lであり (環境省生態影響試験, 2000)、急速分解性があり (BODによる分解度: 88.1% (既存点検, 1976))、生物蓄積性が低いと推定される (log Kow = 2.26 (PHYSPROP Database, 2012)) ことから、区分外に該当する。
以上の結果から、区分外とした。

オゾン層への有害性：本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物：関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
（参考）(1)燃焼法
可燃性の溶剤に溶かし噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）等に混合または吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。
(2)活性汚泥法
生分解性があるので、低濃度の廃水は活性汚泥処理が可能である。
- 汚染容器及び包装：内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

- 国内規制（適用法令）
- 陸上規制：特段の規制なし（非危険物）
 - 海上規制：特段の規制なし（非危険物）
 - 航空規制：特段の規制なし（非危険物）
 - 国連番号：非該当
 - 国連分類：非該当
 - 品名：非該当
 - 海洋汚染物質：非該当
 - 特別の安全対策：輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法：非該当
- 毒物及び劇物取締法：非該当
- 消防法：非該当
- 化学物質管理促進法（PRTR法）：非該当
- 船舶安全法：非該当
- 航空法：非該当
- 海洋汚染防止法：非該当
- 水質汚濁防止法：生活環境項目（施行令第三条第一項）
「水素イオン濃度」
〔排水基準〕・海域以外の公共用水域に排出されるもの
5.8以上8.6以下
・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下
「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
〔排水基準〕160mg/L以下（日間平均 120mg/L以下）
（注）排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合はそれに従うこと。
- 輸出貿易管理令：キャッチオール規制（別表第1の16項）第29類 有機化学品
HSコード（輸出統計品目番号、2020年1月1日版）：2918.21-000
「サリチル酸」

16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

- 参考文献：
- 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ 化学工業日報社
 - 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ 化学工業日報社(2007)
 - 化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防止協会編

化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。